令和８年度　江戸川区立一之江第二学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・よく考え、進んで学習する子ども ・思いやりがあり、助け合う子ども ・体力のある、元気な子ども		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・明日登校するのが待ち遠しい学校 ・よく考え、進んで学習する子ども・思いやりがあり、助け合う子ども・体力のある、元気な子ども ・子供たちの「明日」を考えた指導ができる教師
前年度までの本校の現状	成果	・学力診断テストを通して、基礎・基本をしっかりと身に付けることができた。 ・HPをこまめにアップすることで、学校の様子を地域保護者に積極的に発信することができた。	課題	・体育の授業改善や体力向上に向けた取組に取り組んだが、体力テストの結果の向上にはつながらなかった。 ・保護者からのアンケートを２回実施することで、教育活動の充実につなげていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	**学習の基盤となる基礎、基本の確実な習得のためのテストの実施**	東京ベーシックドリル診断テストの実施	年度末実施の診断テストの正答率60%未満の割合１０%未満	78%		C	年度末の診断テストでは、目標を達成できるように、各学年での取組を引き続き行っていく。	C	20%の保護者が、学力が十分に身に付いていないと感じている。					
	家庭学習習慣の定着に向けた学校の組織的な対応による取組の実施	家庭学習週間（江戸川っ子study week!）の設定	ドリルパークを活用し、７日間×３回（毎学期１回）の実施	76%		C	取り組むことができている児童は多いが、取り組めていない児童への言葉掛けを強化し、さらに向上を目指す。	A	88%の保護者が、学校の家庭学習習慣が身に付く取組を評価している。					
	読書科の更なる充実	学校図書館を活用した探究的な学習の実施	学期に1回、全学年で実施	70%		C	図書館を使っての探究的な学習を学期に１回行えていない学年・学級があった。教科単元を調整して実施していく。	A	学校の取組を通して８５%の保護者が、読書に触れることができている子供が多くいたと感じている。					
体力の向上	**持久力や敏捷性などの基礎体力の向上に向けた取組**	体育授業における運動量の確保	一単位授業あたり、３０分間以上の運動時間確保	100%		A	各学級とも運動量を意識して体育の授業に取り組むことができている。研究の成果が表れている。	B	学校公開では、友達と協力して楽しそうに体育の授業に取り組んでいる様子が見られた。					
		江戸川っ子なわ跳びウィーク	年間で２週間×３回のなわ跳びウィークの実施	88%		B	なわ跳びウィークを実施することができたが、より充実した取組になるよう検討を重ね、より良いものにしていく。	C	家庭で日常的に運動に取り組んでいる児童の割合が少ない。なわとびウィークをきっかけにして、運動の日常化につながるような取組を引き続き行っていく。					
		校内研究による教員の授業力向上による、運動の質の向上	年間6回の研究授業の実施と協議会による授業検討	100%		A	研究を通して、体育の授業力の向上につながっている。継続して取り組んでいき、さらに授業力の向上を目指していく。	A	学校公開では、友達が取りやすいボールの高さや速さを意識して体育の学習に取り組んでいた。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	**特別支援教育の推進**	適正な就学に向けた保護者との連携	対象児童の保護者ときちんと連携して、対応することができている。	95%		A	対象児童の保護者ときちんと連携して、対応することができている。	A	担任、保護者、巡回指導担当教員で課題を共有し、連携して指導に当たることができている。					
	異学年交流	いちにタイムの充実	年間８回の実施、児童アンケートで「いちにタイムが充実している」という回答９０%以上	100%		A	教員目線では、充実した活動をすることができている。取組を継続させていきたい。子供たちも楽しんで行っている。	A	学校の取組を通して、充実した異学年交流を行うことができている。					
		あいさつから始まる異学年交流	児童アンケートの「すすんであいさつをしている」という回答９０%以上	86%		B	あいさつができている児童とそうでない児童の差を感じる。得意ではない児童の習慣化につながる取組を検討していく。	B	８３%の保護者が、子供たちはあいさつがきちんとできているとアンケートで回答している。					
不登校・いじめ対応の充実	**子どもたちの健全育成に向けた取組**	いじめの早期発見・早期対応。	年３回のふれあい月間の実施	100%		A	いじめアンケートやいじめに関する授業を確実に実施し、いじめ防止に向けた取組を推進していくことができている。	B	７９%の保護者が、いじめの早期発見・早期対応に向けて学校は取り組んでいると評価している。引き続き、早期発見・対応に努めていく。					
		不登校の解消に向けた取り組み	対象児童の保護者・SC、SSW等の関係機関との連携率１００%	94%		A	対象児童の保護者に対して、担任、学年、関係機関等で対応をすることができている。	A	９４%の保護者が、自分の子が楽しそうに学校に通っていると感じている。					
		L－Gateを活用して日々子供の実態把握に努める。	実施率１００%	85%		B	日によってL-Gateを実施できていない学年、学級があった。後期は全学級完全実施を目指していく。	B	８５%の保護者が、学校は子供たちの姿を見守り、指導・支援を行っていると評価している。					
地域社会に開かれた学校（園）の実現	**学校（園）ホームページの充実等**	学校ホームページの更新	毎日更新を行う	72%		A	毎日学校ホームページの学校日記の更新を行うことができた。	B	８２%の保護者が、学校だよりやホームページを通して学校の様子がよく分かると評価している。					
	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた本シートに基づいたアンケートの実施	前期後期の年間２回を実施する。	100%		A	前期の教員アンケート、保護者アンケートを基に、話し合った改善策等について、取り組んでいく。	B	前期の学校評価アンケートに対して、134件の回答があり、多くの保護者が教育活動の改善・充実に協力している。					
	保護者が学校に足を運ぶ機会の充実	学校公開・保護者会・運動会等の実施	保護者が学校に来る機会を月に１回以上設定をする。	100%		A	予定されている機会について、案内を配布し、実施することができた。	A	学校公開のアンケートでは、学校の子供の様子が見られてよかった・安心したなどの感想が多く寄せられていた。					
特色ある教育の展開	**一部教科担任制の推進**	３年生以上による一部教科担任制の実施	児童アンケート教科担任による授業が分かりやすいという肯定的な回答８割以上	95%		A	教科担任を実施している全教員が、担当教科の授業力の向上を感じている。	A	９４%の保護者が、教科担任制により、学習活動が充実してると評価している。					
	本校の伝統を受け継いだ教育活動	金魚の飼育を通した、生命尊重・動物愛護の精神の育成	全学級において金魚の飼育と月１回以上の水槽の清掃	84%		A	委員会や係の児童が、金魚の飼育に積極的に取り組み、生命尊重・動物愛護の精神を育んでいる。数値がさらに向上するよう、教員研修等で理解を深めていく。	A	９６%の保護者が、子供たちは生命を尊重し、生き物を大切にする心が育っていると感じている。					
	教育活動の充実に向けたICTの効果的な活用	ミライシードを効果的に活用した授業実践	高学年は１日１回、低学年は週に３回以上のミライシードへのアクセス	90%		A	全教員がPadを効果的に活用して、授業を行っている。更なる充実に努めていく。	B	８９%の保護者がPadを効果的に活用して学習活動に取り組めるよう努めていると評価している。					